

# 【参考】国語力の基盤づくり 幼稚園 5才児



## 事例1

### 降園時のお話タイム

降園時のお話タイムでは、学級の園児が今日一日したことや感じたことなどを話します。

- C: 今日は、鉄棒ができたことがうれしかったです。  
 T: 何ができたのですか。  
 C: さかあがりです。  
 T: すごいね～よくがんばったね! さん、さかあがりできたんだって!  
 C: わぁ～ すごいね。  
 C: 頭からするの?  
 C: う～ん、足からします。  
 C: あんまりしない方がいいよ。  
 T: どうして?  
 C: おちるから。  
 T: さん、落ちたことあるの?
- C: ないよ。  
 C: どうしてかな?  
 C: 手をぎゅっともっていたから。  
 C: ぎゅっと鉄棒もっていたらおっこちないよ。  
 C: ふ～ん  
 T: そうかあ! 落ちそうなとき、特に手で鉄棒をぎゅっと持っていたら、絶対に落ちないのですね。いいこと教えてもらったね。

### 視点①

日常生活の中で、教師や友達と感動することを共有し、言葉で伝え合う時間を大切にします。蓄積された感動体験がいろいろなものを思い浮かべる「想像する力」となったり、新しいことに挑戦しようとする意欲となったりします。

## 事例2

### 降園時のお話タイム

ベジット国のレギューム王から手紙が届きました。『なぜか、わたしの国では、野菜が育たなくて元気が出ません。とても、困っています。どんな場所でも良く育ち、一口食べれば元気が出る野菜の種を探してもらいたい。』というのです。

- T: なぜ、ベジット国には野菜が育たないのでしょうか?  
 C: 水やり、わすれていたのかな。  
 C: ひりょう、やってなかったんじゃない?  
 C: どんな種がいいのかな?  
 C: ぼくらが植えただいこん? にんじん?  
 C: はくさいかな?



翌日、園で栽培したゴーヤを昼食で食べました。配膳後、養護教諭が、「ゴーヤは、ビタミンCがたっぷりです。」という放送をしました。

その日の降園時のお話タイムで、色水遊びのお話の中から、突然ベジット国の話が出てきました。

- C: ベジット国の人にこの色水あげたら、元気になるかもしれない。  
 C: このにおいは、もっと病気になってしまうで。  
 C: あかんなあ。  
 C: それじゃ、ゴーヤは?  
 C: そうやなあ。ビタミンCって言ってたなあ。  
 C: でも、種だよ。  
 C: そうかあ。それじゃ、ゴーヤの種は?  
 T: ゴーヤの種って見たことありますか?  
 C: ゴーヤを半分に切ったら、まん中にあるよ。  
 C: そうそう、こんな形のがいっぱいつまっているの。  
 C: ゴーヤの種、いいかも知れない。手紙に書こう。

### 視点②

「ベジット国のレギューム王の困りごとをみんなで解決してあげよう」と、自分の経験を結びつけて考え、友達と話し合い、言葉で活動のイメージを広げていきます。幼児が自分の経験や体験と言葉を結び付けやすいように、育てたゴーヤを食べたり、その栄養について話を聞いたりする活動を取り入れることは、幼児の「想像する力」を伸ばす上で大切な支援となります。

## 幼稚園教育要領より

### 言葉

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

#### 1 ねらい

- (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友だちと心を通わせる。

## 事例3

### 言葉を豊かにする環境の工夫例

#### 折り紙コーナー

実際の手順が、折り紙や簡単な言葉(文字)で示してあります。



#### 絵本コーナー

さりげなく見て欲しいページが開いてあります。



## 事例4

### 落ち葉あそび

風のやや強い秋の日。幼児たちは、大きな落ち葉で、おふとんごっこをしたり、落ち葉吹雪ごっこをしたりして、思い切り遊んでいました。やがて、片付けの音楽がかすかに聞こえてきました。

- C: 大きな箱がほしいな。  
 T: どうして、箱がいるの?  
 C: だって、葉っぱをとられるもん。  
 T: だれにとられちゃうの?  
 C: 風にとられちゃうんだよ。  
 C: 風が葉っぱをビューっってもって行くんだよ～  
 C: 先生、箱ないかな。  
 C: 早く、早く! 風がとってっちゃうよ～

先生は、何人かの幼児と大急ぎで大きい箱を取りに行きました。箱が手に入ると5～6人が手で片付け始めました。

- C: ありがとう。  
 C: たくさん、葉っぱがあるね。  
 C: 夜まで片付けが続くのと違うかな。  
 C: ブルドーザーみたいに入れよう。  
 T: この箱、どこに片付けておこう。  
 C: ホールがいい。  
 T: どうして。  
 C: 風がもって行かないから。  
 T: そうかあ。ホールは、風が吹かないよね。  
 C: 大きすぎて一人でもてない。  
 C: みんなで力を合わせて運ばないと!!

\* C: 幼児 T: 教師

### 視点③

「葉っぱを風にとられちゃうんだよ」「風が葉っぱをビューっってもっていくんだよ」「早く! 風がとってっちゃうよ～」友達が使う様々な言葉や表現に興味や関心をもち、自分でもそれらを積極的に使ってみることで、友達の気持ちに共感するとともに、言葉に対する感覚が養われます。また、これらの体験が積み重なって、自分の気持ちを状況に応じて相手によくわかるように伝えることができるようになっていきます。